夢を

飛べ！跳べ！翔べ！

tobe　tobe　tobe

人づくりを応援する　村山同郷会の

奨学金

メリット

1
・村山地域出身で県外の大学・大学院の学生なら他の奨学金併用者も応募可能

2
・奨学金（一般奨学生）は月額3万円で、1年分36万円を一括貸与

3
・無利息、20年間返済なので経済的負担が軽い
・連帯保証人は学資負担者でよい

公益財団法人 村山同郷会

人づくりに情熱を注ぐ村山同郷会

財団の草創期	・明治維新によって社会が大きく変わる中、明治42年、山形県村山地方出身学生の奨学と育英を目的に、旧山形藩主水野忠美子爵が中心となって東京の地に村山同郷会が創設された。当時は木造の寄宿舎で学生を受け入れたが、山形を離れて学ぶ学生達にとっては貴重な生活拠点となった。 ・昭和9年に寄宿舎が改築されて名称も村山学寮となったが、昭和20年に戦災で焼失、学生達は行き場を失った。
学生寮発展期	・戦後復興で物資が不足していた昭和25年、山形県と山形市から支援を得て急ごしらえの学生寮が再建された。しかし高度経済成長期に入り入寮希望者が大幅に増えたため、昭和39年、村山地域市町の支援で鉄筋コンクリート造り3階建ての新寮（定員64名）が建設された。入寮は狭き門であった。 ・明治から大正、昭和の時代にかけて育った卒寮生は1千名を超え、県内外、各界各層で活躍している。
奨学金事業期	・平成に入る頃には学生寮のニーズも変化し、入寮希望者が減少して転換期を迎えた。平成11年3月、90年近く続いた学生寮の運営に幕を下ろした。 ・学生寮敷地の売却益で基金を設け、新たな人づくり事業として平成11年度に奨学金事業がスタートした。 ・平成23年4月、公益財団法人へ移行した。 ・これまで奨学金の貸与を受けた者は2百名にのぼっているが、それぞれの分野で今後の活躍が大いに期待されている。

奨学金のご案内

募集対象 → 村山地域出身で山形県外大学への入学者、在学生、大学院生
募集人員 → 10名程度を採用予定（4月下旬に採否決定）

申込期限 → 3月25日（必着）
提出書類 → 願書、出身高校の調査書、学資負担者の収入証明書（最近年の源泉徴収票等）など

送り先　〒990-8799 山形中央郵便局留　公益財団法人村山同郷会 宛
奨学生担当携帯電話 090-5840-1225

ホームページ　https://murayama-dokyokai.wixsite.com/murayama-dokyokai/home
山形県内奨学金事業一覧《山形県ホームページ》からも検索可能

人づくり百年、今も応援を続ける

公益財団法人 村山同郷会

村山同郷会の沿革

学生寮の運営

- 村山同郷会は、明治42年(1909年)、故郷を離れて東京で学ぶ山形県村山地方出身学生の奨学と育英を推し進めるため、旧山形藩主で子爵となられた水野忠美氏が中心となり、学生の生活拠点となる寄宿舎を運営する目的で創設された。こうした人材育成の動きは、明治維新後、新たな社会構築を進めようとする機運の高まりの中、県内各地域でみられた。
- 発足当初の学生数はわずかだったが、増員を目的に明治44年、山形県から財政支援を受けるとともに旧上杉藩の上杉憲章伯爵から建設用地(当時の小石川区表町)借り受け、木造の寄宿舎(定員38名)が建設された。また、組織も法人化され、同年9月12日に財団法人村山同郷会が設立された。
- 以後、拡大する需要に応えるため昭和9年に学生寮の全面改築を行ったが、昭和20年に戦災で焼失した。再建を望む声が多く寄せられたことから、昭和25年に多くの支援を得て急ごしらえの建物を建設し、再スタートを切った。こうした苦難を乗り越えながら向学心に燃える学生を受け入れてきた村山学寮ではあったが、昭和30年代後半の高度経済成長期には首都圏で学ぶ学生が急増、受け入れの拡大が強く望まれた。このため、村山地方市町からの財政支援を受け、昭和39年に鉄筋コンクリート造り3階建ての新寮が完成した。定員は64名に増えたが、文京区小石川という便利な場所にあったことも手伝って入寮希望者が多く、昭和40年代は狭き門であった。
- 昭和50年代の終わりから平成のはじめ頃になると学生寮に対するニーズも大きく変化し、入寮希望者の減少傾向が続いたため、平成11年3月、90年近くにわたって続いた学生寮の運営に幕を下ろした。創設以来の卒寮生は実に1,080名余を数え、経済界、行政、医療、マスコミ関係など、多方面で活躍している。

奨学金事業の運営

- 平成10年に村山学寮の閉鎖が決議された際、併せて、学生寮の運営に代わるものとして奨学金事業を実施していくことが決まった。このための基金の財源は、寮敷地（1,074.25㎡）の売却益3億円余を充てることとなり、平成11年3月、村山学寮は多くの卒寮生に惜しまれながら幕を下ろした。
- 創設以来、当法人の所在地は東京にあったが、奨学金事業への転換を機に山形に移すこととなり、平成11年3月15日、主務官庁を山形県に移し、主たる事務所も文京区小石川三丁目13番9号から山形市平清水一丁目1番75号へ変わった。
- 新たな人づくり事業となった奨学金事業は、首都圏に通う学生を対象にして学生寮を運営してきた歴史を踏まえ、山形県外の大学等に通う者を支援していくこととなり、平成12年3月から奨学生の募集が開始された。奨学金は一般奨学生で月額3万円、無利息で20年間返済などの条件で経済的負担も軽く、平成14年度からは毎年10名程度の採用が続いている。
- 村山同郷会は、明治44年以来、財団法人として運営されてきたが、公益財団法人化の検討が始まり、平成23年4月1日から「公益財団法人　村山同郷会」となった。また、百周年を迎えたことから、平成25年2月に「村山同郷会百周年記念誌」を発刊した。記念誌には多くの卒寮生や奨学生から寄稿をいただき、人づくり百年の歴史と愛着が詰まったものとなった。
- 平成31年4月末日をもって平成の時代が終わり、5月から新元号の「令和」になった。令和元年度までの採用した奨学生は、延べ200名にのぼっている。奨学金事業の開始からすでに20年以上経過し、社会人となって活躍している者も増えており、当法人には今後も有為な人材を育てていく役割が期待されている。

公益財団法人 **村山同郷会**

所在地: 〒990-2401 山形市平清水一丁目1番75号　山形パナソニック㈱内

電話 (023)632-1240　　奨学金担当携帯電話 090-5840-1225

メールアドレス: murayama-dokyokai@kind.ocn.ne.jp